

石川県専修学校／法務省告示日本語教育機関

令和2年度  
自己点検・自己評価報告書

(2021年1月実施)

学校法人アリス国際学園

専門学校アリス学園 金沢校

専門学校アリス学園 加賀校

アリス日本語学校 横浜校

# 目 次

- 1 学校の教育目標
- 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
- 3 評価項目の達成及び取組状況
  1. 教育理念・目標
  2. 学校運営
  3. 教育活動 / 4. 学修成果  
(①介護福祉学科、②国際ビジネス学科、③日本語学科、④加賀校、⑤横浜校)
  5. 学生支援
  6. 教育環境
  7. 学生の受け入れ募集
  8. 財務
  9. 法令の遵守
  10. 社会貢献・地域貢献
  11. 留学生の在籍管理・生活指導
- 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

## 1 学校の教育目標

(学則より抜粋)

- ・「文化・教養専門課程」では、国際化時代に通用する語学力と実務知識、幅広い教養を身に付けた人材を育成する。
- ・「商業実務専門課程」では、専門的なビジネススキルの習得を通じ、社会人としての総合的な能力と実務知識、幅広い教養を身につけた人材を育成する。
- ・「教育・社会福祉専門課程」では、介護福祉の学問を通じて、実務知識と幅広い教養を身につけた人材を育成する。

## 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 経営方針として外部環境問題への対応と重点課題への取り組み
  - (1) 各学科の連携強化
  - (2) 国際ビジネス学科の強化
  - (3) 介護学科の奨学金制度の種類明確化
  - (4) 日本語学校横浜校の安定化
  - (5) 海外拠点の運営黒字化
  - (6) 職員の育成プランと働き方改革の計画策定
  - (7) 広報戦略の基本方針策定
  - (8) 教育部門以外の収入獲得方法検討
- ② 経営目標として経営安定化に向けての国内事業並びに国外事業の推進
  - 国内事業
    - (1) 各学科の定員増を検討
    - (2) 働き方改革により無駄を省く
    - (3) 日本語学校横浜校の安定化を図る
    - (4) 体系的職員育成プログラム作成する
    - (5) 学園の魅力発信方法を確立する
    - (6) 本科の学生及び委託訓練生の学費以外の収入の可能性を検討する
  - 国外事業
    - (1) ハイフンのアリス研修センターの経営安定化を図る
    - (2) カンボジア校の経営安定化を図る
    - (3) インドネシア校の設置の検討を行う

## 3 評価項目の達成及び取組状況

【評価基準】 4：達成している 3：概ね達成している 2：やや達成 1：改善が必要

1. 教育理念・目標		評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育、その他の教育指導等の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

「人々の幸せを追求し生きる力を育む」という学園理念のもと、介護福祉学科、国際ビジネス学科、日本語学科の3学科にて、力強い人づくり・グローバル教育・地域社会での貢献を行っている。また、社会の変化に合わせ、ICTをはじめとする新たな取り組みとともに、日本人・外国人学生のキャリア教育を柔軟に行っている。

## 2. 学校運営

評価

2-1	運営方針が策定されているか	4
2-2	事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意志決定機能は確立され、効果的なものになっているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の運営方針並びに事業計画の見直しが余儀なくされた。金沢校介護福祉学科の令和3年4月からの定員増について、石川県より認可を得ることが出来た。

## 3-①. 教育活動（介護福祉学科）

評価

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-3	関連分野の施設・業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
3-4	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-5	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-6	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-8	キャリア教育・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

- ・今年度は、コロナ禍で実習受け入れ施設が減少。実習施設の確保が厳しく、次年度も事前の受け入れ承諾が難しいとする施設も多い。2020年度は実習施設に特例措置が取られたので、アルバイト先で実習受け入れしていただくことで、実習先を確保することができた。
- ・昨年度不合格者を出した実習において、不合格者を減らすために、実習指導の強化、指導方法の変更を行い、今年度は不合格となるものはいなかった。
- ・今年度は、1年次の日本語の強化を目指し、日本語の授業を週1回実施する予定にしていたが、休校期間の授業時間確保のため、日本語の授業を実施できなかった。次年度は是非実施したい。
- ・昨年度同様、国家試験対策として、1年次は、学力評価試験と全国統一試験を実施。模試の解説を行う。12月冬季休暇中に、2年生と一緒に複数回の模試を受けて、各学生の成績を把握する。2年次の前期は、1カ月に1回模試を行い、模試の解説を行う。後期は、問題や解答の傾向をつかむことと解答の文章パターンを記憶することを目的として、過去の国家試験を3回繰り返し連続して行う。科目別で行い、国家試験に出やすい箇所の再確認となぜこの解答は不正解になるかの根拠説明を中心に行う。
- ・介護教員講習会にオンライン1名が参加し取得見込みである。今年度は教職員の研修も開催が少なかったこともあり、評価は3としたが、今後もオンラインで実施される研修等に参加していく。

4-①. 学修成果 (介護福祉学科)		評価
4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

- ・卒業生の介護福祉士国家試験不合格者のフォローを、実施。しかし現状卒業後はなかなか試験勉強に取り組めず再受験を行う学生が減少している。今後は支援先を通じて、再受験を促していきたい。
- ・実習先、就職先、支援先へのアンケート実施。指導の不足点、改善点などのデータを収集し、分析していきたい。

3-②. 教育活動 (国際ビジネス学科)		評価
3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-3	関連分野の施設・業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
3-4	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3
3-5	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-6	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-8	キャリア教育・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
3-12	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

<現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

R2年度より特定技能の在留資格にも対応し得るカリキュラム・シラバスとなっており、外国人留学生にとってより柔軟性の高いカリキュラムとなっている。各今期より開講した観光論、ホテル総論、宿泊サービス、料飲サービスに関してオリジナルテキストを作成し新たな取り組みが出来た、また学生達にも興味を持ってもらい積極的な授業展開ができた実感するが、コロナ禍の影響で観光業、宿泊業、飲食業が壊滅状態でこの新たな取り組みの授業が就職の為に有利な条件では無くなって来ているのが現状であり、新たな飲食料品製造業、ビルメンテ業等の授業展開を見据えなければならない為、特定技能での就職を見据えた項目に変更する必要がある、また国際ビジネスへの進学前に介護を目指していた学生にももう一度介護への道が進めるように特定技能「介護」の取り組みを行うか、介護学科との提携を展開していく。今年度は教員が海外研修や外部研修を計画していたが、コロナ禍の中で実施する機会がほぼなく、内部における研鑽のみとなったため評価は2とした。

4-②. 学修成果 (国際ビジネス学科)		評価
4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	2
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	2
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

国際ビジネス学科 1 年時のビザ更新で、半数もの学生が許可申請で不可となった問題で、今後は学生達自らが申請都道府県を考え申請を行い、学科ではフォローする。2 年生の就職支援に関してはコロナ禍の影響で就職が困難とされており、まずは就職が決まっていな者に特定活動申請を行い、卒業後もフォローしながら就職支援を継続し、卒業後の学生への対応を継続する。同様に特定活動試験の受験も継続して行う。

3-③. 教育活動（金沢校・日本語学科）		評価
3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	3
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

令和 2 年度については、コロナ禍の影響により 4 月から手探りだが、オンライン教育に取り組むことができた。その中でオンデマンド授業と課題配信授業のそれぞれの課題が明確になった。今後はその課題を改善し、オンライン教育を必要に応じて実施していく準備が必要となる。

キャリア教育については、一部クラスでは年間スケジュールを立て実施できたが、クラスのレベルによっては難しいこともあり、それぞれのレベルに応じた実施ができることが今後の課題となっている。また、外部評価に関しても当校の国際ビジネス学科との連携を強化し、カリキュラムの改善が必要だ。

教職員の研修については、一部の教員には実施したが、もっと受けたかったという声もあり、次年度は計画を立てて実施していく。

4-③. 学修成果（金沢校・日本語学科）		評価
4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	3
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

今年度は初めて学内にて 9 月に J. TEST を準会場として実施し、学生たちのモチベーション向上にもつながり、JLPT の N3、N2 の取得率の向上にもつながった。今後も実施していく。

外部に進学した学生の活躍については、把握がしっかりできていないことがあるため、今後は連絡網を作り、そうした学生の状況についても学務課と連携し把握していく。

3-④. 教育活動（加賀校・日本語学科）		評価
3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4

3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

ごく少数ではあるが、卒業時の到達目標の日本語レベルに到達しない学生が出てしまった。今後は自宅学習がより定着するように ICT を使った自立学習をより促進したい。また、今年度は外部研修への参加が一部に限られたため、教育力の質の向上を目指し、教員間の授業見学や情報共有、勉強会の充実を図りたい。

**4-④. 学修成果 (加賀校・日本語学科)**

**評価**

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

授業以外に介護の補講を実施し、進学に備えた予備教育を充実させているが、それに比べ一般進学者（アリスの介護福祉学科以外）への進学者や就職希望者へのフォローが手薄なので、自分で調べられる資料コーナーをさらに充実させたり、面談体制を強化したい。また、教員の進路や進学の指導のスキルを伸ばすための研修に参加するなど取り組みを考えたい。

**3-⑤. 教育活動 (横浜校)**

**評価**

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

コロナ禍において得た ICT スキルやノウハウを活用し、日本語の資格取得や進学については一定以上の成果を出すことができた。一部のクラスでは、アクティブラーニングの強化やキャリア教育の実施も行っている。今後進学や資格取得のための指導のみならず、職場体験や講演会などを行い、キャリア学習をより実践的なものに近づけていきたい。また、今年は外部の先生をお呼びする勉強会が1回のみと少なかったが、次年度は初任者研修や主任研修を予定しており、校内での勉強会の機会も増やしていく必要がある。

課題としては、新たに始まる特定技能の指導用カリキュラムの設定や大学院進学希望者への指導内容を強化していくことが挙げられる。

#### 4-⑤. 学修成果（横浜校）

		評価
4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

#### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

今年度はコロナ渦ということもあったが NAT-TEST, J-TEST など、JLPT 以外の外部試験にも積極的に参加させ、進学に活かすことができた。コロナの関係で退学した学生がいたが、次年度は退学者0を目指したい。教育活動として現在行っている課外活動や毎日の校内清掃は社会人としての人間形成を目的として続けている。今後はボランティアなどの情報提供を増やし、社会的な活躍に結び付けてほしい。

#### 5. 学生支援

		評価
5-1	進路（進学・就職）に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の心身の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-6	保護者・関係者と適切に連携しているか	4
5-7	卒業生への支援体制はあるか	3
5-8	各種法令等の情報を把握し、学生に適切に周知しているか	4

#### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

- ・介護福祉学科の国家試験不合格者及び国際ビジネス学科の在留資格変更不許可者に対する卒業後の支援が必要である。
- ・今年度は「いしかわフードバンク」への登録を行い、困窮学生（新入生やバイト削減されたものなど）の支援を行う体制を整えた。
- ・今後新規アルバイト先の獲得。アルバイトの管理を徹底し、学生の経済的側面を支援するとともに、資格外活動の違反を抑制する取り組みを行っていく。

#### 6. 教育環境

		評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3

#### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

・学校での防災訓練及び消防用設備点検は毎年1回実施しているが、留学生の増加に伴い学生寮での防災訓練がなかなか実施できないので今後改善が必要である。



## 7. 学生の受け入れ募集

評価

7-1	学生募集活動は、受入方針を定めて適正に行われているか	3
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-4	学生募集要項が整備され、学費等の納付金や返還規定等が明確になっているか	4

### <現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

外国人留学生については、国内外の日本語教育機関より多国籍化を進めながら受け入れているが、日本人学生については高校生・社会人（委託訓練生）ともに減少の傾向は変わらず、外国人留学生に対する日本人学生の割合が極端に低くなっていることが課題となっている。また、コロナウィルスの影響も受け、昨年度ホテルをはじめとするインバウンド業界への就職を強みとしていた国際ビジネス学科のR3年度入学予定者数が前年度より減少した。今年度HPの改定は行い、一部項目は英語等で公開しているが、教育成果（就職者数、資格取得者数等）については各種公的機関への報告のみとなっており、学校としての公開はされていないため、改善していきたい。今年度はYouTubeを活用した広報・マーケティング活動に取り組み、在校生や卒業生のインタビューの配信をはじめ、各種行事活動をこれまでのFBだけでなくYouTubeにて発信している。同じく留学生及び委託訓練生を募集するためのアニメーションも作成しYouTubeやHPを通じて配信をしている。

## 8. 財務

評価

8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

### <現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

新型コロナウイルス感染症の影響により、留学生の入国が大幅に遅れたことと入国できない留学生が発生したため収入が大幅に減収となった。そのため、減収分の補填として金融機関からの借入を実施したことにより、財務状況を圧迫し、事業活動収支が当初予算より大幅に悪化することとなった。今後は、金沢校・加賀校・横浜校の運営強化、海外事業の推進並びに新規に専門学校を設置し財務基盤の安定化を図る。

## 9. 法令の遵守

評価

9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
9-5	関係省庁への定期報告・各種報告を遅延なく実施しているか	4

### <現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

引き続き、個人情報に関する保護、対策の徹底に取り組む。SNSなどを活用した学校案内、学校PRを行っていく上で個人情報の保護は重要であると考え、入学時、個人情報に関するアンケートを実施しているが、入学時のみではなく、毎年春に全学生に実施していく。

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価

10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

今年はコロナウィルスの影響を受けて活動は大きく制限され、例年行っていたボランティア活動や公開講座が中止となったが、グローバル人材の育成、地域社会への人材輩出、地域のグローバル化促進、奨学金制度をはじめとする経済困窮者に対する支援等の社会貢献ができています。地域住民との交流の機会は限られてしまったが、その中でも町内清掃や地域の雪かき等を教職員・学生が行っている。また、学園として各種教育活動・行事等を通じて、SDGsが目指す社会の実現に寄与している。

11. 留学生の在籍管理・生活指導		評価
11-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
11-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
11-3	日本の法令及び地域社会における規則等を遵守させる指導を行っているか	2
11-4	常に最新の学生情報を把握しているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

・今年度は、「WSDB」学生情報管理システムを導入。入国時の申請より、在留期限更新の際の書類の管理作成が容易になった。今後アルバイトの管理、出席管理、成績管理などを1つのシステムで行っていく予定。  
 ・入学時より、日本で生活する上での注意、法令順守の指導は行っているが、一部の学生で資格外活動違反があったことが原因で、R1年度の在籍管理状況を受けて、R2年度は日本語教育機関としての日本語学科が法務省からの適正校の認定を受けることができなかつたため、適正校化に向けて在籍管理（特に外国人留学生の資格外活動違反防止活動）の強化・改善が急務となっている。

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校アリス学園における自己点検・自己評価は、平成24年度から学内に「自己点検・自己評価委員会」を組織して実施しており、「自己点検・自己評価」の結果については、学校外の関係者による評価を受けるため「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会での評価並びに提言を学校運営の改善に繋げている。

なお、自己点検・自己評価項目については、文部科学省による「専修学校における学校評価ガイドライン」を準用しているが、金沢校・加賀校・横浜校の日本語学科は、法務省告示日本語教育機関でもあるため、一部の項目については、日本語教育振興協会が定める「日本語教育機関教育活動評価基準項目」を取入れ実施した。

総合的な評価としては、一部の項目を除き、概ね昨年度と同等または改善・向上した結果が得られている。コロナ禍において、2か月間の登校停止期間があったが、オンライン教育の実施により教育の質は維持できた。また、そこで得られたICTスキルやノウハウを活用することで、数年前より継続しているアクティブラーニングの強化にもつながり、教育の質の向上が図られている。

教職員の研修については、コロナ禍において当初の計画通り実施されなかつたことで評価が下がっている。また、日本語学科については時代の変化に伴い、卒業後の進学先や就職を見据えたキャリア教育の重要性が高まっていることを受け、教育改善はしている中で評価は下がっている。在籍管理については、昨年度の自己点検・自己評価においても課題となっており、退学率の低減に向けて今年度は管理強化を進めていたが、出入国在留管理局の方針転換（審査基準の厳格化）もあり、留学生の在留資格更新が許可されないことで、多数の退学者を発生させることとなった。課題は明確になっているため、既に対策を実施している。

また、この数年課題となっている高校卒業生の専門学校進学者数を増加させるため、YouTubeやSNSを活用して高校からR2年度に入学した新入生の座談会をはじめ、授業・活動の様子等を通じて学園の魅力を積極的に配信している。R3年度の進学者数増加という成果にはつながっていないが、対策は継続していく。